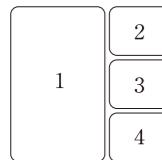


# 阿東

Ato



①阿武川中流にある国の名勝「長門峽」。断崖と奇岩が続く渓谷で、清流と紅葉で知られます。②阿知須、徳地と並び、人気の山口和牛のひとつ「あとう和牛」。霜降りの肉は柔らかく、味わい深い好評。③生雲八幡宮奴道中。10月の第1日曜日、生雲八幡宮大祭の際に行われています。④十種ヶ峰(とくさがみね)、別名「長門富士」と言われ、夏はキャンプ、冬はスキーなど一年を通じて楽しめます。



## 山々に抱かれた 豊穣の里「阿東」



山口市の最北部に位置する阿東地域は北を島根県と接し、中国山地に囲まれた夏は涼しく冬の寒さが厳しい高冷地で本州最西端のスキー場があります。「十種ヶ峰」をはじめとした山々を水源とする阿武川の清らかな水に恵まれ、豊かな自然の恩恵を受ける阿東地域は農林業の盛んな地として知られ、昼夜の大きな温度差は良質でおいしい「あとう米」や「あとう和牛」を育んでいます。また、30品種以上が味わえる西日本最大級の観光リンゴ園や、明治時代から栽培されている「長門峠梨」もよく知られています。赤い石州瓦が映えるのどかな田園地帯をSL「やまぐち」号が駆け抜ける風景も人気があります。



観光りんご園は、8月中旬～11月下旬まで開園。  
時期ごとに異なる品種のりんごが味わえます。  
ジュースやジャム、パイなどの加工品も人気



しだれ桜の名所として知られる徳佐八幡宮。参道には150本以上のしだれ桜があります。



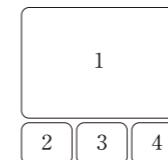
山口市無形民俗文化財の「土居神楽」。昭和48年に地区の有志により保存会が結成されて以降、神楽の普及と伝承による地域づくり活動が行われています。



船平山に咲く「ユウサゲ」の花。船平山には群生地があり、黄色いユリのような可憐な花が咲き揃う7月下旬の夕方には、毎年「ゆうすげ祭」が開かれています。

# 徳地

Tokuzhi



①体験交流公園「重源の郷(ちょうげんのさと)」。昭和初期の農村風景が再現され、藍染めや紙すきなどを体験でき、重源上人(ちょうげんじょうじん)についても学べます。②ケビンやオートキャンプサイトなどがある「ふれあいパーク大原湖」③森林セラピーとは、森の持つ癒し効果を人間の心と身体の健康づくりに活かす、一步進んだ森林浴です。④県下最古の平安末期の建造物の「月輪寺(がちりんじ)」。国の重要文化財



## 重源上人も 心を寄せた 杣入りの地「徳地」



島地地区の交流拠点施設として設けられた「ロハス島地温泉」。源泉かけ流しの温泉、地元産食材を使った食堂や特産品販売所、朝市などがあり人気です。



鎌倉時代、東大寺再建の任を担った重源上人は、徳地で用材を伐り出しました。



旧八坂中学校を活用して建設された「やまぐちサッカー交流広場」。スポーツはじめさまざまな交流を図る施設として地域内外の方に活用されています。



和紙の産地だった徳地。江戸時代、和紙は萩藩の特産「防長四白」の一つとして藩の財政を支えました

# 山口 Yamaguchi

平成4年、樺野川の河口に完成した  
「周防(すおう)大橋」



陶陶窯跡(すえのすえかまあと)(陶地区) 鋳鉄司郷土館(鋳鉄司地区) 名田島南蛮櫻(名田島地区) 朝日山護国神社(秋穂二島地区)

## 「山口」 歴史を 動かしてきたまち

山口地域は樺野川の河口に広がる干拓平野などからなる地区と、山々に囲まれた盆地からなる地域です。北部は盆地に位置し、室町時代には守護大名・大内氏の拠点として発展。約200年にわたって西国一の栄華を誇りました。江戸時代は毛利氏の領国となり萩に城が築かれましたが、幕末は拠点を山口へと移し、山口御屋形を築城。明治維新後、その地が山口県庁となり、県都として発展してきました。南部は樺野川の下流域に広がる地域で、近世以降、開拓が進められてきました。各地区の地域資源を写真で紹介します。



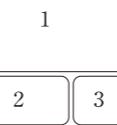
山口ふれあい館(宮野地区)

維新百年記念公園(吉敷地区)

国立大学法人山口大学(平川地区)

JR大蔵駅(大蔵地区)

# 小郡 Ogori



①再開発が進むJR新山口駅周辺を臨む②ターミナルパーク整備が進められているJR新山口駅。山陽新幹線の停車駅であり、SL「やまぐち」号の始発駅・終着駅としても親しまれています ③樺野川東津河川公園で行われる「ふしの夏まつり」。ふしの岩戸太鼓や花火の打ち上げなど多彩な催しが行われます



## 交通・流通の 要として 発展するまち「小郡」



「小郡文化資料館」では、俳人の種田山頭火や彫刻家・河内山賢祐など、小郡にゆかりの深い人物の作品や資料を展示しています。



漂泊の俳人・種田山頭火は小郡を気に入り、「其中庵(ごちゅうあん)」を結び、昭和7年から6年間、暮らしました。その庵が復元されています。



幕末、藩は長州以外の人々の山口への出入りを禁止。小郡の商人は山口大神宮に参詣できなくなった人々のため藩に嘆願し、「山口大神宮小郡遙拝所」を建立。現在も地域の人々の手で守られています。

小郡地域は樺野川が山口湾に流入する河口平野に位置しています。山陽道の宿駅・津市を中心に発達し、津市は津和野へ至る石州街道と山陽道の分岐点でもありました。明治時代を迎えると小郡には小郡駅が置かれ、山陽本線・山口線・宇部線の起点となり、鉄道のまちとして発展。また、中国自動車道の小郡インターチェンジが設けられ、国道2号・9号、山口宇部道路なども通る小郡はアクセスの良さから流通の拠点に。さらにJR小郡駅が平成15年、新山口駅に改名されて以後、

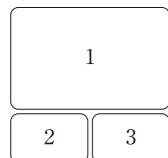
駅周辺の都市開発が進展。平成27年10月にはJR新山口駅の南北自由通路が供用開始となり、山口の玄関口として小郡地域の発展が一層期待されています。



「オゴオリザクラ」は15枚前後の花弁を持つ桜で、市の天然記念物に指定されています

# 秋穂

Aio



①中道海水浴場。ヨットなどマリンスポーツを楽しむ人たちにも人気のスポット ②天明3年からの歴史がある「秋穂八十八ヶ所靈場めぐり」。旧暦3月20日・21日の「お大師様の日」には市内外から多くの人が訪れます ③「正八幡宮」は山口県独特の楼拝殿造り。装飾部分が優れ、江戸時代中期を代表する社殿として国の重要文化財に指定されています



祈りのまち「秋穂」  
豊かな海に抱かれた



「秋穂フルーツトマト」は平成27年3月にやまぐちブランドに登録されました。



中道海水浴場で開催される「えび狩り世界選手権大会」。15,000匹の活きたクルマエビが放され、それを捕った数を競います。



秋穂出身の名ランナー、故・浜村秀雄氏の偉業を讃えて開催される「浜村杯秋穂ロードレース大会」。穏やかな瀬戸内海と自然に恵まれたコースに毎年千人以上の参加があります。



クルマエビをはじめ秋穂の海産物や農産物、手作りジャム、あいおまんじゅうなどを販売している道の駅「あいお」。南部海岸道路の休憩スポットとして親しまれています。

# 阿知須

Ajisus



①多目的ドーム、サッカー・ラグビー場、人工海浜、トリム広場などが揃った「山口きらら博記念公園」 ②野鳥や渡り鳥など多くの生き物が観察できる「山口県立きらら浜自然観察公園」 ③ちらめんや古布を使った手づくりアートが「いぐら通り」周辺を彩る「阿知須ひなまつり」 ④5月中旬～6月上旬に行われる「阿知須浦まつり 十七夜祭・花火大会」。昼は山車がまちを巡行し、夜は花火大会が行われます



「阿知須」  
きららのまち  
交流と躍動。



廻船業のまちとして栄えた阿知須浦。白壁の居倉造りの家並みが残り、その代表的な住宅が「阿知須いぐらの館」として公開されています。



道の駅「きららあじす」。地元産の新鮮野菜や海の幸、特産の寒漬、懐かしいしょうゆ玉などを販売しています。



「宇部72カントリークラブ」は、西日本最大級の4コース72ホールの規模を誇るゴルフ場。パラエティ豊かなレイアウトで、国内最高レベルのコースでプレイできます。



甘く、ホクホクした食感が評判の「阿知須くりまさる」